

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和5年4月1日

事業所名 こどもプラス大阪3rd吹田江坂教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		指導訓練室を広く使えるように環境整備を行い、安全面にも配慮しています。	
	2	職員の配置数は適切である	○		基準に沿った職員を配置しています。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○		事業所の入口付近に軽度の段差がありますが、職員が付き添いを行う等、安全面での配慮を行っており、今後も継続していきます。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		常勤職員が中心となり、日々細かな報告や話し合いを行っています。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		職員間での課題の把握、情報共有を行い、随時検討、改善を行っています。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		保護者様へは集計結果を書面にてご報告させていただいており、事業所のホームページ上でも公表を行っています。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		完全な外部評価ではありませんが、こどもプラスHD本部による定期的な評価実施を行い、改善に努めています。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		毎月、事業所内研修を実施しており、事業所外部研修へも積極的に参加しています。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		ご利用者様、保護者様へのアセスメントを実施し、ニーズや課題に沿った放課後等デイサービス計画を作成しています。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		共通のアセスメントシートを活用し、毎年4月に更新しています。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		常勤職員が中心となり、各支援員の長所を活かしたプログラムの作成、提供を行っています。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		反復プログラムと新しいプログラムを織り交ぜながら、ご利用者様が興味を持って取り組めるように工夫を行っています。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		長期休暇、休日の際でしか行えない活動もあり、目的を設定した課外活動等の企画の立案、実施を行っています。	

	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		必要に応じて、個別での支援も行っています。	基本の活動は集団活動ですが、ご利用者様の状況や課題に応じて、個別での対応を検討し、放課後等デイサービス計画の作成、支援の提供を継続していきます。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		その日の支援内容や役割を確認し、報告を含めて、ご利用者様の状態の把握、情報共有を行っています。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		支援終了後に、当日の様子を振り返りながら、情報共有を行っています。また、職員間で情報共有できる連絡ノートも活用しています。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		日々の様子や支援方法等の記録をとり、課題を明確にすることで、支援の見直しや改善を行っています。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		2か月毎にモニタリングを実施し、児童発達支援計画の継続や変更等の見直しを行っています。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○		運動だけでなく様々な内容の活動を組み合わせ合わせて支援を提供することで、一人一人の課題に応じた支援を行っています。	地域交流については、不十分であり、課題として、今後、検討、改善を行っていきます。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		基本的には児童発達支援管理責任者が出席しますが、状況や課題に応じて、最適であると判断した支援員が出席することもあります。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		送迎や日々の体調を含めて、情報共有、連携を図っています。また、保護者様を通じて、下校時刻や送迎時の対応等、事前に細かな打ち合わせを行っています。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○			現在、医療的ケアが必要なご利用者様の利用はありませんが、必要の際には連携を図っていきます。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			継続して利用しているご利用者様については行っている部分もありますが、就学と同時に利用されるご利用者様については、十分とは言えない部分もあります。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			現在まで、該当のご利用者様はおられません。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			随時、連携を図っており、研修会等にも積極的に参加しています。

	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		地域の公園等で一緒に活動することはありますが、それ以外ではありません。地域交流も含め、今後検討していきます。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		市の取り組みや吹田市事業所連絡会へは毎回参加しています。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		連絡帳や電話、LINE等のツールも活用しながら、保護者様と連携し、日々の様子や課題等の情報交換、共有を行っています。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		保護者様からの相談を含めて、都度、行っていますが、現状では十分とは言えない部分もあり、今後、幅広い支援が行えるように検討、改善を図っていきます。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		ご契約時には必ずお時間を頂き、細かな説明を行っております。また、ご契約後もご不明点がありましたら、都度、ご説明させていただき、各種手続き等に関しても、必要に応じてサポートを行っています。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		ご相談を受けた際には、助言やサポートを行い、必要に応じて、外部機関との連携も図っています。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		令和4年度も新型コロナウイルス感染症の関係もあり、実施できていませんが、令和5年度は開催を予定しています。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		ご相談を受けた際には、必要に応じて外部機関とも連携も図りながら対応を行っています。また、こどもプラス大阪各教室とも報告や意見交換を行い、迅速な対応を心がけています。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月会報を配布し、日々の活動報告を行っています。	
	35	個人情報に十分注意している	○		連絡帳の写真等も含めて、保護者様から同意を得ています。また、全職員に対して、個人情報の取り扱いに関する指導を行っており、利用者情報や職員情報に関しても取り扱いは厳重に対応を行っています。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		契約書等の書類に関しては、拡大文字版、ルビ版も用意しています。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		現時点で、地域行事の開催は行っておりませんが、今後、必要に応じて、実施の検討もしていきます。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		契約時に登所しおりにて説明は行っている部分もありますが、保護者への完全な周知が行えているとは思えません。	要望があればマニュアル等の開示や書面で行ってはおりますが今後は、保護者会等での周知も図っていきたく考えています。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		各種マニュアルを策定し、ご契約時に説明を行っています。また、定期的なマニュアルの見直しや避難訓練に加えて、防災センターでの児童の体験活動も取り入れており、今後も継続していきます。	ご要望があれば、マニュアル等の開示も行ってはいますが、保護者様への周知方法については不十分な部分もあります。今後、保護者会等も活用し、周知を図っていきたく考えています。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待防止・権利擁護研修を毎年実施し、虐待防止に向けた取り組みを行っており、法人虐待防止・権利擁護委員会にて、事業所だけでなく、法人全体で事例検討等も含めて、協議、検討を行っています。また、行政機関やSSW等とも連携を図りながら対応を行っています。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		身体拘束ゼロに向けての取り組みを行っており、身体拘束実施の事例はありません。	法人身体拘束防止委員会により、事業所だけでなく法人全体で協議、検討を行い、身体拘束ゼロに向けた取り組みを今後も継続していきます。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		保護者よりアレルギーに関する情報はいただいておりますが、医師の指示書はいただいております。	医師の指示書はいただいておりますので、必要に応じて、医師の指示書の提供も求めていきます。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		事業所内で事例をファイリングし、いつでも閲覧できるようにしています。また、法人安全管理委員会にて、こどもプラス大阪各教室と情報共有を行い、安全管理、事故防止に向けての取り組みを行っており、今後も継続していきます。	